

母乳育児確立のためのセルフケア能力を 高める看護に関する研究

－母乳育児相談の場面から－

山崎美穂(基礎看護学)

【キーワード】 母乳育児, 授乳困難, 母乳分泌,
頻回授乳, セルフケア

本研究の目的は、母乳育児において自力で解決できない問題を持つ母が、母乳育児を確立できるように導くための看護の指針を得ることである。

研究対象は、母乳育児に関する苦痛・困難を持ち、自ら看護支援を求めてきた母と関わった自己の看護過程である。

研究方法は、母乳育児確立へと至った事例を選定し、母のセルフケア能力の向上に意味があると思われた場面を再構成する。その「関わりの意味」「看護者の認識と表現の特徴」を研究目的に照らして分析し、看護の指針を取り出す。

研究結果として、3事例9場面を分析し、36の指針を抽出することができた。それらの意味内容の共通性・相異性を検討し、自力で解決できない問題を持つ母が、母乳育児を確立できるよう導くための看護について以下8項目の指針を得た。

- 1 相談を受けた時は、母の安楽を優先し、五感を働かせて得られた情報から母の認識の乱れを感じ取り、母と子の五感に働きかけながら情の安定を図り、子が吸吮できるまでを支えよう。
- 2 授乳上の問題を明確にしたい時は、授乳行動を確認し、母と子のからだ、こころ、社会関係、生活過程の事実をつなげながら、母乳分泌維持と子の成長発達に効果的であるかという観点で見つめよう。
- 3 母乳分泌への不安を捉えた時は、乳房の正常な働きを母とともに確認してその事実を共有し、量が少ないことで、何度も子に求められて吸われ、だんだんと分泌が増え子の要求量とつりあ

っていくことを伝え、母が母乳育児確立までの見通しを立てられるよう手助けしよう。

- 4 子に過剰な人工乳を飲ませている時は、新生児の消化管の特徴と飲みすぎによる子の反応を伝え、母が子の立場に立てるよう促そう。
- 5 子の吸吮を継続させたい時は、休息の取りやすい授乳姿勢を示し、子にとって吸いやすい乳房を維持することの大切さを伝え、母が、子の求めに応じて頻回に授乳しようと思えるように関わろう。
- 6 乳首の安静を取り入れる時は、母に、乳輪下の乳管の束状部分への刺激の手技を教え、子の求める授乳のタイミングで行うように伝えよう。
- 7 母乳中心へと授乳法変更を促す時は、母が、変更に伴う子の変化を発達とつなげられるよう手助けし、一時的な子の不機嫌への対応困難を予測し適応するまで積極的に言葉をかけて母の意欲を支えよう。
- 8 母に自信を持たせたい時は母の授乳行動とつなげて乳房のよい変化の事実を示して評価しよう。